

総務文教委員会記録

令和3年6月8日（火）

10時00分～12時09分

全員協議会室

【委員】 西村委員長、芦谷副委員長
三浦委員、西川委員、上野委員、永見委員、西田委員、牛尾委員

【委員外】

【議長団】

【事務局】 下間書記

【議題】

1. はまだ議会だより読者アンケートに寄せられた意見等への対応協議について（委員間で協議）

(1) はまだ議会だよりの読者アンケートに寄せられた意見への対応について

(2) はまだ議会だよりの読者に向けてアンケート調査を行いたい項目について

2. その他

【議事の経過】

[10 時 00 分 開議]

西村委員長

出席委員は8名で定足数に達しているため、ただいまから総務文教委員会を開会する。

1. はまだ議会だより読者アンケートに寄せられた意見等への対応協議について（委員間で協議）

(1) はまだ議会だよりの読者アンケートに寄せられた意見への対応について

西村委員長

それぞれお手元に配ってあるような意見が寄せられている。読まれてきたとは思いますが、当委員会として対応方針をまとめていきたい。

委員によって字数がかなりアンバランスだったので、どうまとめようか。番号ごとにどうまとめるかの意見も含めて各委員に意見を出してもらいたい。

牛尾委員

1番について、この方は今まで市がやってきた補助や支援の事業を土木建設業にも広げてほしいということだろうと思う。要約すれば、人材が足りないから中小企業にも人が来るような施策を考えてほしいというのが趣旨だと思うから、それに合った答えでよいのではないか。したがってこれは産業建設委員会の案件であり、向こうが書くべきだと思う。

西村委員長

牛尾委員が言われたような具体的な手立てを、この文章から読み取ってもよいのだろうか。私はむしろ最後のほうが結論だと取ったのだが。とにかく聞いてくれと。ただ、重みは産業建設委員会にあると思った。読み取り方の問題もあるのだが。

西田委員

私も二つある気がする。一つは土木建設を含めた業界に対して、将来の人材不足を考えて市からの後押しが必要だということ。

もう一つは市として現場に出向いてほしい。現場の状況をしっかり捉えてほしいという要望だと思う。回答は議会の立場で書かないといけない。

牛尾委員

最後の2行は議会に対して意見を言うのに一般論として追記された面があるのでは。中小企業は人が足らず大変だ、一方では的を絞った支援策を出しているがほかには出してない。そこが言いたかったのでは。そういうことなら産業建設委員会にお任せすればよい。

三浦委員

議会広報広聴委員会から各常任委員長に、委員会として積極的に関係団体や市民との意見交換を行うようお願いしている。このご意見の趣旨は現場に出向いて現状を聞いてくれということだと思う。まず意見交換会を当委員会でも積極的に行っていくといった対応でお返しすればよいと思う。

西村委員長

牛尾委員が言うように、最終的に何か施策を打ってほしいということだろうと思う。しかしこれは議員への要望だということを考えると、現場の声を聞いてくれということが書かれているわけで、どういう方法で声を聞くかは意見が分かれるにしても、聞くということは全面的に受けとめねばならないのではと率直に思った。

そこから議論して政策討論にいく場合もあろうし、執行部への政策提案につながっていく可能性もあるかもしれない。この文章には「あなたらは現場を知らないのでは」という思いもあるのではないかと。まず知

ることからやってほしいという願いも読み取れる気もするので、そこから始めたらよいのでは。

ただ、その主体となるのは産業建設委員会ではないかと思う。

三浦委員

農業・土木・建築は産業建設委員会の所管であることは私も理解するところだが、U I ターンの促進という観点からすれば、幅広く定住対策の所管委員会である総務文教委員会でも取り扱うべきではないか。

永見委員

浜田の各企業はU I ターン者を募って、人材不足を解消させようとしている企業がある。そういう意見を聞きながら対応を検討するのも方策かと思う。

上野委員

建設業だけでなく福祉関係はもっと厳しいところがあると思う。そういうのも含めて現場の実態を聞かないと。定住が長続きしないという問題もある。中小企業との意見交換ができたらと思う。

三浦委員

ご意見には農業・土木・建築と書かれているが、こうした意見をいただいたことで、この分野に限らずさまざまな業種で同様の人材不足問題があることは我々も理解するところであり、総務文教委員会として広域にわたってのU I ターン施策について、現場の方々からヒアリングを行っていく、という対応はいかがか。

牛尾委員

もともと回答は何文字くらいの想定なのか。紙面は決まっているのだろう。ちなみに今回の中小企業の支援金5億2千万円だが圧倒的に真っ先に見えたのは土木関係であった。それが業界の常識なのである。福祉系は慢性的に人が足りない。全業種で人不足なのでどこかで絞らないと。この時期各議員は各地でいろいろな声に耳を傾けているので、それほど聞き漏らしはないと思う。悠長に議論するようなレベルではないと僕は思う。

芦谷副委員長

現場を知ってくれという意見は、それはそれとして、ここまで来れば市がかかる分野についてU I ターンを進める。U I ターン事業の次という意味で2番、3番を書いている。1番は人を雇用する団体、福祉も含めて、そういうところの実態を把握し、必要なら市に要望してもらおう。場合によっては全体でキャンペーンを打ってU I ターンを受け入れることも必要。

そういった、浜田で働く人を受け入れる行動はしては。実態を知るにとどめていてはいけないと思う。

西田委員

このご意見を出されたのは恐らく土木建設に携わっている方であり、過去・現在・未来を見ても浜田益田道路が完成すれば大型公共事業がなくなってしまう。そうすると、市としても投資的事業の予算がどんどん減額されている。建設業の危機感をどうしたらよいか。冬季や災害時に必要になってくるのは地元の土木建設である。結局外部から来て仕事してごっそりお金を持って外部に逃げられる。そういう状況を少しでも阻止しないといけない。官民一緒になって新たな仕事をつくっていかないといけない。そして人材不足のことも皆で考えないといけない。もっと危機感を持ってほしいから、机に向かっているだけでは声は聞こえないと言われている気がした。

西村委員長

いずれにせよ即効果が出るような施策を考えろ、あるいは市にぶつけろということではないと私は受けとめているのだが、どうか。

- 最初から素直な受けとめとして、出向いてヒアリングすることも有効的な手段だと思う。そこからしか我々は手を打てない気がするのだが。
- 西田委員 人の取り合いをされていて、弱いところはその競争に参加できない。取り合いだけしていても長い目で見ると、本当にその地域はよくなるのかといえば違うと思う。取り合いではなく育てていくことも重要かと思う。業界トップの方々と議員とでざっくばらんな協議をする機会がなければいけない。
- 牛尾委員 「わかりました、どこでも出かけていくのでお声かけください」というような回答ではいけないか。
- 西村委員長 もうこれ自体が声かけだと思っている。具体的な字数のイメージはないとのことなので、そういう意味では適当にしか書けない。まとめ方としては牛尾委員から提案があったように、この声を受けて素直に受けとめる形の具体的なアクションを打つような回答にしたいと思うがどうか。
- 下間書記 案として「定住対策や担い手不足解消等の観点から、各業種の方々の意見を聞く機会について、関係委員会をはじめ議会全体で検討していきます」ということではどうか。所管委員会の別なくして。
- 西村委員長 事務局から、具体的な文章での回答案が示された。私はそういう感じでよいと思うが、皆はどうか。よろしいか。
(「異議なし」という声あり)
では、最終的にまとめるのは正副委員長ということでいきたい。次は21番、免許証返納について。
- 西川副委員長 情報をつけ加えると、黒川町にお住まいの方が石見まちづくりセンターの意見箱に入れた件であり、その後どうなっているのかと追加の意見をいただいた。
- 西村委員長 西川委員が言われたように、自治区でいうと浜田、バスが通って便利な場所に近いが、1時間に1本で使い勝手が非常に悪いという声である。
- 西田委員 黒川は黒川で不便さを感じている。浜田は広い。もっと重い悩みを持っておられる方がたくさんいる。デマンドタクシー、コミュニティバス、自治会輸送など、模索はずっと続く。そのうちに人口は変化して、先々どうなるかわからない状況が続く。思い切った財政投資というのも手段の一つかもしれない。
- 牛尾委員 今後の浜田市にとって一番大きく重い問題ではないだろうか。大麻がやっている自治会輸送も、最初は3町内でやる話だったのが2町内になっているのだが、すごい負荷がかかっているらしい。美川では、移動販売車はよいが美川に来るころには売れ残りばかりで買うものがないという声がある。この問題を解決できなかつたらどうにもならなくなるのでは。補助金を出して済む問題ではない。議会改革と同じようにエンドレス。担当課が地域の声をしっかり聞いて、できることはするというしか、今は回答できない気がする。
- 永見委員 公共交通の問題は各地域によって条件が違ふし、住民のニーズも全然違ふ。私の地元で増えてきている要望は、病院は仕方ないにしても買い物については地元で対応できないかと。地域のまちづくりセンターを中心に対応を考えてもらうのも一つの方法かと思っている。

芦谷副委員長

利用者の声がいつでも聞いてもらえる仕組みを一つつくる。デマンド交通も利用実態や利用者の声を聞いてから整備する。そういう市民目線で進めればよい。

西村委員長

しかし民間バス路線は基本的に事業者の営業方針で決まってくるのだから、それを最終的にとめる根拠はない。路線バスの路線上のことは、こちら側に言える部分はほぼないと思っている。

21番については「そういう意見があったと伝える」というくらいしか対応できない気がする。

芦谷副委員長

ほかの交通手段への接続や、終点を駅ではなく医療センターやスーパーにするなど、利用実態を踏まえて利用者の声を聞きながら、時間帯変更や起終点の整備などができさえすればよい。

三浦委員

民間事業者に対してダイヤを最終的に指導するのは難しい。市内各地で公共交通のあり方や移動手段の確保は状況がかなり違う中でどうしていくかは、かなり大きな課題である。それを委員会として現状を踏まえ、今も報告を受け次第、適宜政策チェックや提案も個々にはされているが、委員会として大きな問題として、終わりをどうつくって議論していくのかは、今後相談の必要があると思うが、委員会としても公共交通のあり方については議論していく、という返し方のほうがよいのでは。「担当課につながります」だけでは、議会はスルーということになってしまうので、我々としては現状を踏まえて何が打開策なのか、やはり研究、提案していくのが委員会の役割だと思う。

牛尾委員

所管委員会として地域公共交通は検討しなければならないテーマなので、全身全霊で取り組んでいきたい、ということではよいのではないかと。

西村委員長

まとめ方は先ほど三浦委員が言われたような形で、対策を委員会として話し合っていくという表現にする。単に「バス会社に伝える」で終わらず、委員会として協議していく、ということを中心に表現にする、ということではよいかと。

永見委員

公共交通については民間バスがある程度のエリアを運行してくれているが、地域によっては全然走っていないところもかなりある。そのあたりは行政の力を借りてデマンドなり乗り合いバス、市営バスの運行、タクシー利用もしている。多少その中に入れていただきたい。

下間書記

「公共交通の状況は各地域によって異なっており、浜田の地域特性に合った交通手段を細かく分析する必要があります。公共交通のあり方については大きな課題として受けとめており、執行部に現状確認をしながら総務文教委員会として対策について議論を進めていきます」でどうか。

西村委員長

事務局から提案いただいた流れでつくっていく、ということを確認しておきたい。

次、24番。

上野委員

多分これは旭のくらしの学校だと思う。主事が一人増えた関係で今の事務所で3人は窮屈であり、館長がそこへ行っている。しかしせっかく3人いるのだから一緒にいたらどうかという声もあり、事務所を広くしてもらおうかどうか、考えているらしい。

3人も人をそろえても実質変わらないという評価が下るのをものすごく恐れている。しかし事業が増えれば人手が足りないから困る。だからく

らしの学校をうまく活用して、時々そこに誰かがいるように考えていると言われていた。

西村委員長
上野委員

くらしの学校についてももう少し詳しく教えてほしい。

昔、寄附された学校で、木造のきれいな学校である。そこを拠点に、よそから人が来るイベントをしたり、そこを大事にしてきた。木田地区振興協議会の方が時々管理しておられたが、このたびまちづくりセンターができたので職員が一人増えたので、そこに一人置くべきか。置けば3人がばらばらになって困るだろうかということで困っている。しかし3人となると事務所は狭いため、センター長はくらしの学校に行っている。

西村委員長

24番の方はくらしの学校のことを言っているのではない。まちづくりセンターで全てやっていただきたいという趣旨なのか。くらしの学校をどうしろというのか。

上野委員

くらしの学校にも振興協議会の方が時々行っていた。小さいまちでセンターに3人も要らないから、一人はくらしの学校で活動すればよいではないか、と発言する人もいる。しかしこの人にとっては、センターに3人いてほしいようである。

西田委員
三浦委員

上野委員の意見をもう少しコンパクトにして回答すればよい。

地域の実情はそれぞれ異なるので、総合的にまちづくりセンターのあり方について返答するのはどうか。例えば、まちづくりセンターとはまちづくりの各地域の活動が促進されることを目的に設置されているので、各地域の実情に合わせてまちづくりセンターが機能していくように、今後もそのあり方について総務文教委員会として活動を見ていきたいと思う、など、総論にはなるが委員会から回答すればよいのでは。

西村委員長

私としては三浦委員が言われた内容をまず据えて、その後に上野委員の言われたことを地元でもっと協議してというような文章にしていってはどうかと思う。「なお」として加えたらどうか。

(「はい」という声あり)

まちづくりセンターがまちづくりの核になっていくので、委員会としてもそこに主体的にかかわっていく、ということで前半をまとめ、後半は上野委員の書かれている文章につなげて、地元でよく話し合って決めて運営していってほしい、という全体的なまとめにしたい。

次が25番。これは同じか。

上野委員

旭の話である。市木は立派な空き家が多い。中心部の耕作放棄地が多い。とにかく市外に出た人に空き家バンクに登録してもらおうよう協力を促すため、まちづくりも市も連携したほうがよい。

牛尾委員

両隣の市が浜田より明らかに人が多いわけではないし、現状はどこも一緒である。旭は空き家バンクに登録しても住もうという人がなかなかいないという話。そういう地域的な理由もあるのでは。目につくのはつくだろうが。

三浦委員

地域協議会との意見交換会で聞いたかどうかという提案をされた。今ちょうど、議会として地域協議会の方々との意見交換会を実施している。これは例だが、各地域の実情を把握するためにこうした取り組みを議会でも行っている。引き続き各地域の状況について目を向ける努力をしていきたい、という答えでよいのではないか。

牛尾委員

例えば美川地区は連合自治会で空き家バンク登録をして、子ども連れでもらったら補助金を出すということまでやっている地域もある。悪くはないが、生き残るために一生懸命そういうことをやっている地域もあるということ伝えてほしい。

一番のネックは仏壇の処理だそうで、これが簡単にできればもっとよい立地の空き家が出てくるはず。

西田委員

仏壇処理がネックになっている家は何軒あるのか。多ければ公共施設や空き家の中を誰かがきちんと管理しながら。仏壇の保管と世話をする。公共の空き施設を使ってそこに仏壇を全部まとめる。そこに行けば手を合わせられる仕組みをつくれればよい。そのかわり年間委託料をいただいて、そういうのも一つの手である。

牛尾委員

その案はよい。そういう施策を市が打ち出せば、もっとレベルの高い空き家が出てくるだろう。

西村委員長

墓はよく聞くが、仏壇もそういう話があるのか。

永見委員

うちの地元でもそういう話があり、仏壇はお寺に預けた。西田委員が言うようにまとめる方法も一つだし、空き家バンクに登録された方がそのあたりの対応をしていただければ次のステップに進めるのでは。空き家バンクに登録される方と行政との協議もあってよいのでは。

上野委員

昨日、浜田の地域協議会との意見交換会があった。市街地にも空き家が随分あることをすごく心配されていた。補助金できれにしてもらったほうが入りやすいとか。そういうことも含めて空き家バンクを本気で力を入れないと、どんどん空き家が増えて立ち行かなくなる。

西村委員長

いただいた意見の半分が空き家関連であることは確かなので、空き家対策にどう対応するかについて一言は要るだろう。

芦谷副委員長

市議会が幾ら頑張っても、空き家も農地も森林も執行部が方向性をつくり、そこに一緒になってやっていかないと。議会で意見を言って終わるのではなく次のステップを歩めるように、私としたら一定の方向性や見解を示して執行部にやってもらうのがよい。

牛尾委員

所有者の責任もあろうが、やはりJAがもっと頑張らないといけないのでは。各地で支所を閉めて、お金を出すところがないといって皆困っている。金貸し業務だけでなく耕作地をどうやって守っていくかが、JAの使命な気がする。まず市がやるのではなくJAに先頭に立っていただくのが筋では。

西村委員長

空き家バンクは少なくとも今やっているわけで、やっている結果が出ている。だから「やっています」とは書いてよい。しかしそれ以上の対策を求めているのだろう。

西田委員

空き家が増えていることと、空き家の周辺管理、周りの草刈り、空き家所有者の田畑、そういうものが放置されていて困っている。これがまたどんどん増えていくと、若手が空き家管理を請け負う。周辺の草刈り、家の管理を年間通じて管理する。その年間委託管理料を受ける。それが何十件とあれば結構起業もできる。例えば所有者が都市部におられたら、そこから2か月に1回くらい空気の入れかえや草刈りをしに帰ってきていたら何十万も飛んでしまう。それを全部こちらで管理する。きちんと写真データを送る。やりとりをしながら。そういう起業の可能性がすごく

あるし、やっているところもある。何かそういう前向きな回答ができればよいのだが。

芦谷副委員長

農地中間管理機構で農地を集約する仕組みがある。もう一つ、荒廃森林を管理委託する方法がある。そういう制度を積極的に勉強して、制度をつくる。こういうことだと思う。

牛尾委員

条件のよい耕作地は放棄された後も有効活用されている。問題は不利地域の放棄地をどうするかではないか。

三浦委員

仮に総務文教委員会で空き家対策について具体的に研究していくことがここで総意になれば、「総務文教委員会で空き家対策に関する研究を行っていきたいと思います」という回答がよいのでは。「地域協議会との意見交換で実情を把握していきます」よりはさらに踏み込んで委員会の対応が示されることになるので。

そこで先ほどから皆がおっしゃっている意見を出し合って知見を交換したり、その中でよい策が出れば申し入れすることになるのでは。

個人的に申し添えると、先ほどの情報交換や意見交換は非常に有効な場だと思うので、ぜひ勉強会のテーマの一つとして取り上げてほしいのでは。

西村委員長

私は最初に言われた意見どまりでよいのではないかと思う。私が心配しているのは、9月まで取り組むとしても3、4か月なので少し無理ではないかと思うので、その程度にとどめて、これがベースにあって次期にそういう話が出たときに、空き家対策の話に絡んで委員会としてももう少し強く、取り組み課題の一つに上げる動きが出れば本気で取り組んでみればよいと思っている。あまり欲張ってもと思うがいかがか。

(「異議なし」という声あり)

ではそのようにしたい。

38番はコーディネーターの人材の話。少なくとも今年度から来年度まで2年間は今のメンバーが基本動いていく。それぞれ意見があれば述べていただきたい。

西田委員

私も、人選の経緯については確認しておいたほうがよい気がする。

まちづくりコーディネーターのみならず、人材次第で周りの意識も変わるし、その人が地域に入ることによって地域も変わっていくので、人選も人材育成も極めて重要だと思う。

西村委員長

38番については、西田委員の人選が極めて重要だということと、その経緯について執行部に回答を求め、今後の人選については地域おこし協力隊をという提案をされているが、そういうことも含めて今後の人選に生かしてほしい、そういう文章にするということではどうか。

三浦委員

地域おこし協力隊の活用がここで進言されているが、それも踏まえて人材誘致の制度はさまざまある。それらの制度の活用も踏まえ、戦略的な人材配置が行われるよう執行部に求めていく、という書きぶりだともう少し。地域おこし協力隊の活用だけが全てではないので、そういう意味で出すほうが委員会のスタンスとしては、よりよいと思った。

西村委員長

今言われた意見も取り入れた形で文章化したい。それでよろしく願います。

(「はい」という声あり)

(2) はまだ議会だよりの読者に向けてアンケート調査を行いたい項目について

西村委員長

あれば出してほしいと言って、出されたのは6項目ある。西田委員、芦谷副委員長、三浦委員、上野委員から。これは委員会としてストレートに上げてよいのか。

三浦委員

議会だよりにあるアンケートを、各委員会も有効活用していただきたいという意図で各委員会にご相談するものである。したがって各委員から出てきたもの丸々となると、また議会広報広聴委員会での審議が大変になるのである程度絞っていただき、委員会の総意としてこういう質問を委員会活動に生かしたいので、アンケートを使わせてくれないか、という意図で出していただくとうれしい。

西村委員長

牛尾委員も出したそうだが総務文教委員会にはそぐわない内容だったらしく、ここには載っていないとのこと。

議会広報広聴委員会委員長である三浦委員から、考え方が示された。6項目ある中で、どのようにまとめればよいか。あるいは、1番についてはこういう意見を私は持っているといった、具体的な意見がいただけたらうれしい。ほかの方が、これらの項目について意見を述べてもそれはそれでよい。いずれにせよ意見がほしい。

西田委員

総務文教委員会の討論テーマが幼児教育だったので、それと併せて私個人的にも、若い世代に対するいろいろで。若者にとって出会いがすごく大事だと思っていて、スポーツ、文化、芸術、本当に高いレベルのものと出会うことがすごく大事だと特に感じている。

読者に対して、幼児期、児童生徒、若い子どもたちに対して少しでも意識や目を向けてもらうための手段として、この項目を書かせてもらった。具体的にということだったので、ふるさと郷育についてどのような体験をぜひさせたいか。

三浦委員

私は4、5番を提案したが、特に4番については先ほど西田委員がおっしゃったように先般の幼児教育に関する提言を踏まえて、より具体的にどういったことを求められているかを伺ってはどうかという意図でこの設問を考えた。教育環境に対して期待をされているかという、大きなところで数字で5から1、また具体的にふるさと郷育についてこうやってほしいとかいう要望が聞けたらよいのではないかと。考え方としては同じ。

5番は、まちづくりセンターに対して、認識も含めて期待されているかという設問を考えてみた。今後まちづくりの拠点としてどういった活用のされ方がよいかを検討するに当たり、その材料としてこういう声が出ていたらよいと思った。ただ、これは行財政改革推進特別委員会の所管になるのかもしれない。

芦谷副委員長

私は2、3番。例えばアンケートはしっかりした構えがないと、中途半端な項目を設定すると、突出した意見が出過ぎて実態の市民の思いとはかけ離れてしまう。対象者や質問項目のバランスがよくよく大事である。あえて設問をするなら「生活する上で困っていることがありますか、どんなことでもご意見をお寄せください」という程度でよいと思った。

例えば「今の浜田市に満足していますか」と設問したら、ものすごく変なことになったりして。アンケートは民意を汲み取る手法を用いない

と危険だと申し上げておく。

上野委員

これまでのアンケートではこちらが沈むような内容があったので、市民の前向きなアイデアを出してもらえばこちらが気が楽なので、こういう設問を考えた。

牛尾委員

議会広報広聴委員長の三浦委員に伺いたいのだが、はまだ議会だよりの主たる読者はどういう年代を想定されているか。

三浦委員

実際に開いて読み込む人という意味なら、厳格にリサーチできてないので正確には申し上げられないが、先般の読者アンケートなどのリアクションを見ると、相対的には高齢者で、そういう方々がアンケートを活用してくださっている印象はある。ただ、高齢者は熟読していて若年層は見えていないとは断言はできない。しかしそういう印象はある。

牛尾委員

学生時代の先輩が二人、議会だよりを読んで連絡をくれた。その年代に沿った設問は答えが帰ってきやすいかと思う。アンケートの回答が出しやすい年代にあえて的を絞った質問がよいかというとそうでもないし、難しい。年に4回出るので、年代を分けて質問していくといろいろな意見が出るのでは。こういう質問ならこういう年代の回答が出てきやすいとか、そういうことを試してもらおうと後の参考になるのでは。

西村委員長

個人的に確認しておきたいのだが、三浦委員の4番の設問。教育環境に対して期待しているか。これは何を期待しているかではなく、教育環境に対して期待しているかという設問か。

三浦委員

「教育環境に対して満足しているか」のほうが意図が伝わりやすいだろうか。満足していれば、今の環境はよいと思っている。満足していないなら、どういう点に満足していないのかを伺いたい。前提として委員会ではゼロ歳から18歳までの一貫した教育施策が必要だと述べていたので、それに絡めて。前回具体的な提言もしたが、さらにどうかということを書いてみたい。

西村委員長

備考のところ「一貫した教育施策」になっていた。厳密に言えば教育環境と施策は一致しないので。言われることは大体わかった。

また、芦谷副委員長の2番の設問、言われることはよくわかるが、それは読者に何を問うか。問う場合には我々は気をつけねばならないという意味で。私らで話し合っただけで戒めるよう確認することは必要かと思うが、これにはすぐわない中身ではなかろうか。

芦谷副委員長

例えば仮に「浜田市政に満足していますか」という設問があったとすれば、満足していないというのが圧倒的に多いはずである。アンケートをするときには気をつけないといけない、というつもりで言った。

教育環境にしても、満足しているかと聞いてどういうことになるか結果が心配である。

牛尾委員

幼児教育を含めて委員会として市長に提言したわけだから、その関連の質問をするのは妥当な話で。それはよいのではないか。

西村委員長

1と4は共通するところがあるので、何かまとめた形の設問にしたほうが答えやすいか。項目の多い少ないどちらがよいのか私もわからないが。1と4は統一したほうがよいように思うがどうか。

教育環境に満足しているかという設問にすると、満足していないという意見が圧倒的になりそうだという意見もあったので、そのあたりでど

- 三浦委員 ういう調整をつけるか。
先ほど上野委員がおっしゃった、市民の発想を聞きたいという設問はよいと思った。なので、確かに芦谷副委員長のご指摘のように、満足しているかと聞けば満足してないという答えが返ってくるだろうというのもわかった。
- 牛尾委員 そうすると西田委員が設問されているように、ふるさと郷育についてどのような体験があったらよいかというのは、上野委員が言われる、市民の発想や着眼点を伺うものなので、何か否定的な意見が返ってくるものではないと思う。
したがってそういう設問にして、今後の委員会での議論の種になるような。ふるさと郷育についてがよいのか、どういう設問がよいかはもう少し議論してもよいと思うが、そういう尋ね方のほうがよいかと感じた。
- 西村委員長 今言われたようにふるさとに愛着を持ってもらうためのふるさと郷育を、皆はどのように考えるか。はまだ市民一日議会に応募した私の先輩は、できるだけ夢を語りたいたいという。そういうことは聞きやすい。よいと思う。そういう意味では芦谷副委員長が言われるように、設問については考えないといけない。
- 三浦委員 例えば、1番はこれでよい。私としては一緒にしたい思いはあるが、4番でいうと、「現在の教育環境に対してどのように思っているか、どのように改善してほしいか」という持っていく方。
- 西川委員 要するにその人がどれだけ主体的にそのことを考えているか、ということも、あえてそこで問うことができる。そういう設問にしたらよいと思うのだが。
- 西村委員長 最初に5段階でといった案を申し上げたが、全体での教育環境への満足度を図るためのアンケートではないので、委員長がおっしゃったような設問に賛成である。
- 西村委員長 私はアンケートの設問作成担当をしている。3番だが、自由意見欄を設けていて、そこに含まれるものだと思うので。これはいつもやっている内容だと思う。
- 西村委員長 今までの意見を参考に、正副でまとめよということなので、そのような方向でまとめてもよろしいか。
(「はい」という声あり)
ではまとめさせていただきます。

2. その他

- 西村委員長 当然次回までにとということになるだろうが、次回は6月定例会議の初日になるだろうか。
- 下間書記 この締め切りが6月21日なので、初日で決定して大丈夫かもしれない。
一つ確認したい。先ほどまちづくりコーディネーターの人選については執行部に確認すると言われた。執行部に確認したものを議会だよりに掲載するという意味合いなのか。
- 西村委員長 委員会で確認するという方針を載せる。
- 下間書記 「確認してまいります」というようなイメージか。そう書くと、執行部にどう確認したのかと聞きたくなると思う。

（「そこは除いてもよいのでは」という声あり。）

西村委員長
牛尾委員
ほかにあれば。
任期もあと数か月となった。今年の視察は限られた条件の中で行く方向なのか。

西村委員長
下間書記
今の制約はどのように整理されているか。
公用車のみの使用で中国5県限定、かつ緊急事態宣言が発令されている広島と岡山は不可である。

西村委員長
牛尾委員
そういう条件つきであるが、行く案があれば出していただきたい。
福祉環境委員会は日帰りを2本計画して、1本が吉賀町、1本が三次だったが三次は断られた。イメージ的には日帰りを想定すればよいのだろうか。

下間書記
西村委員長
日帰りでも、1泊2日でもよい。相手が受けてくれれば。
視察なので、どこへ行くかというよりも、何を視察するかによって議論に上がる。
行くのであれば本当に具体的に決めないと行けなくなるので。日程的な関係もあって。6月定例会議の初日の委員会で、議題にのせて確認したい。それまで皆にご検討をお願いします。
ほかにないか。
（ 「なし」という声あり ）
以上で総務文教委員会を閉会する。

[12 時 09分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員長 西村 健 ㊞